

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390800043		
法人名	社会福祉法人とおの松寿会		
事業所名	グループホーム長寿庵		
所在地	岩手県遠野市材木町2-22		
自己評価作成日	平成28年10月28日	評価結果市町村受理日	平成29年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0390800043-00&PrEfCd=03&VerSiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・タフのミーティングの時間を活用し、「ミニカンファレンス」として、利用者対応や業務改善、外部評価の検討等を職員みんなで行う時間を設け、職員間の共有の場としている。 ・事業所の年間計画を職員で役割分担を行い、目標値や実施の可否を可視化できるように取り組んでいる。 ・日用品の購入や、病院受診等、原則ご家族にお願いすることで、利用者と家族の関係性を切らないように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の年度の実践目標3項目を定め、進捗状況が一目でわかるように工夫した内容の「実践項目年間計画」を作成し、重点的に取り組んでいる。 ・タフの時間帯に「ミニカンファレンス」を行い、運営やケアに関して話し合える職員間の共有の場として活用している。 ・利用者が使用する日用品の購入を、家族にお願いする等して、関係性を継続できるように、利用者と家族との交流を積極的に支援している。 ・地域住民の参加や協力を得ながら、避難訓練等を定期的に実施しており、地域との協力体制を築いている。 ・食事場面において利用者の笑顔が見られる。職員は、開設当初から勤務している者が多く、利用者との馴染みの関係にあり、距離感が近く信頼関係を築いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・法人と長寿庵としての理念があり、毎朝のミーティングで唱和して共有、実践に繋げている。	理念は、母体法人の経営の基本理念と、職員間で話し合っ作り上げた事業所の理念：基本方針(ミッション)があり、共有スペースである居間兼食堂に掲示している。事業所内の朝の申し送りの際に、理念を唱和して共有するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・避難訓練、町民運動会、入部行列、消防フェア等に参加して、地域の一員として交流している。	自治会に加入している。地域住民の一員として自治会の総合避難訓練、市主催の防災訓練、地域の運動会、消防署主催の消防フェア等に参加している。事業所は、地元自治会、利用者家族との地域交流会を主催する等して、地域住民との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・市内の6か所のグループホームと共同し、認知症カフェを開催し、認知症の人の理解や支援方法を地域の方々に発信している。 ・長寿庵の介護支援専門員と在宅介護支援センター相談員で、認知症についての地域講和を実施している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2か月に1度運営推進会議を実施。そこで、利用状況、行事、事故、研修状況等を報告し、随時参加した運営推進委員から意見をいただいている。会議の時間に併せて、避難訓練の時間を設け、意見を頂く機会としている。	運営推進会議は、2ヶ月ごとに、小規模多機能事業所とグループホームが合同で、開催している。委員の任期は2年である。直近の会義では、今年の台風10号に関連した意見や情報交換を行い、関係者から助言・指導を頂いている。会議記録は、職員、家族等誰でも閲覧できるように、居間兼食堂に置いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・利用者の重度化や入院時における、状態変化時には、遠野健康福祉の里、介護保険係へ相談に行き、今後の対応について報告や助言をいただいている。	市職員に運営推進会議の委員として参加していただき、情報交換を図っている。災害注意報、警報等が発令されると、市町村担当者から利用者の安否確認の電話がある等、市からの積極的な関わりがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・長寿庵内の介護研修で身体拘束の研修を実施。日々のケアの中で身体拘束について、疑問に思っていることを部会員に確認している。 ・岩手県の高齢者権利擁護推進員を配置している。 	<p>事業所は、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。母体法人と事業所が主催して、身体拘束に関して職員の共通認識を図ることを目的とした、権利擁護やスピーチロック等をテーマに研修会を開催している。昼は玄関の施錠はしていない。居室・トイレ・風呂場には、ナースコールを設置している。必要とする利用者の居室には、転倒防止センサーマットを使用している。</p>	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・介護研修内で高齢者虐待及び、身体拘束について実施している。また、日々の介護場面での疑問に感じることを、「身体拘束・高齢者虐待疑問シート」とし、意見を随時吸い上げている。 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・現状、活用している利用者がいないが、12月に長寿庵内の研修で実施する予定である。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用契約締結前にも、家族にグループホームの概要や利用料金の説明、事業所内の見学の時間を設けている。 ・介護保険の報酬改定等の際には、文書での通知や重要事項説明書の再同意を頂いている。 		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・法人の苦情報告会や運営推進会議で汲み取られた意見を公表する場を設けている。 ・事業所内に、苦情受付箱を設置している。 ・家族がカンファレンスに参加することで、意見や要望をくみ取っている。 	<p>事業所内の苦情等受付窓口・苦情等受付ボックス、母体法人の苦情申し立て専用メールを設置しているが、苦情の事例はない。職員は、日頃の会話を通して聞いた利用者の意見や要望を運営に反映し、活かしていく支援に努めている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・事業所内での会議での職員からの意見の汲み取りや、法人で行う意向調査から意見を取り入れる機会をもっている。	事業所内で、月毎に開催される長寿庵会議(職員会議)、介護研修、毎日のミニカンファレンスにおいて、職員の意見や要望を把握するようにしている。また、母体法人も、全体会議、個人面談、意向調査を行い、把握に努め、運営に反映させている。風呂のすべり止めマットの交換について職員から提案され、実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・平成28年度より、介護支援専門員の実務従事者に対して月額5千円を支給するようになった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・事業計画書内に、研修履歴の欄を設け、職員一人ひとりが今後受講する予定の研修を視覚化している。 ・法人・事業所内の研修については、企画から実施までを職員が行うことで、トレーニングできるように努めている。外部研修については、認知症実践者研修や介護支援専門員研修への参加を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・遠野市内6か所のグループホームの職員が協同して、認知症カフェを実施。認知症カフェ内でも研修を企画し、個々の事業所の研修の場としている。 ・他事業所の職員と協同で福祉業界のイメージアップを図れるよう遠野ケアイノベーション会議へ職員を派遣している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・利用開始前の実態調査で本人の想いや考えに耳を傾け、グループホームへ生活環境が変わることへ、不安が少なくなるよう、声がけを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・利用開始前に、家族へグループホームの内容や利用料金の説明、併せて、事業所内の見学的时间、家族と話をする時間を作っている。 ・遠方の家族もいるので、利用開始直後も本人の状況をこまめに電話を通し伝えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・初期対応の段階では、生活環境の変化に慣れることや、現疾患の軽減を支援の優先にし、段階的な対応を行うようにしている。また、実態調査や初回のアセスメントの際に、本人、家族から意向や望む介護を確認し支援を行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・洗濯干し、洗濯たみ、食事準備、お菓子作り、掃除等、利用者・職員が一緒に行えるよう関わりを深めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・一部家族の中には、一方的に対応を委ねられていると感じる所がある。面会に来る家族が固定されている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・以前利用していた、美容院に行き、馴染みの人との交流を行っている。また、自宅近所の方が誕生日のお祝いにかけてくれて、踊りを披露して下さることもあった。	入居前に利用していた美容院や食堂に出かけること、近所の方と会ったりすること等、利用者が馴染みの場や人と継続的な交流ができるように働きかけている。家族が利用者と話しやすい雰囲気の中で面談できるようにと、居室や和室を提供している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士の日頃の関係を把握し、座席の配置を考えたり、交流やトラブルがあった際は、職員が仲介している。 ・仲の良い利用者同士は、お互いの居室でお話できるよう配慮を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・生活環境が、他施設に変更場合は、介護サマリーや本人のアセスメント情報を提供し、グループホームでの生活に近づけるよう支援を行っている。その他施設にも、面会に行き、スタッフに直接情報提供を行うこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・アセスメント場面で話す言葉だけではなく、食事や入浴、他者との関わり等、日常生活の場面で利用者が漏らす言葉を大切に意向として把握するように努めている。	利用者一人ひとりの思いや意向に関心を持ち、ジェスチャーを取り入れたり、利用者が分かりやすい声かけ(ある程度大声で話しかける等)をして、コミュニケーションを取るように工夫している。日常生活支援の中から利用者の意向を把握するように努めている。毎日、ミニカンファレンスを行い、職員が情報を共有して支援に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・利用開始前の実態調査で家族から、本人の過去の職歴、生活の仕方を確認している。また、以前介護保険サービスを利用していた方の場合、担当の介護支援専門員から、確認している。 ・利用開始後は、本人からも以前の生活の仕方を確認するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・実態調査やアセスメントで利用者の状態を把握を行う。介護支援専門員のみ視点だけでなく、介護職員と協同で行っている。また、利用者の変化については、夕方のミニカンファレンスやカンファレンスで検討、フジデータや支援経過に入力して対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・3か月に1度はモニタリングを実施し、カンファレンスに介護職、ケアマネ、管理者、小規模看護職員、家族へ連絡・調整し参加可能な時は参加していただき、介護計画に反映するよう努めている。	年一回、家族の都合に合わせてカンファレンスを開催し、その場に家族も参加していただき、意見やアイデアを介護計画に反映するようにしている。3か月に1回はモニタリングを行い、介護計画を策定している。毎年、事業所が主催し開催する家族との食事会において、意見交換をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・夕方にミニカンファレンスの時間を設けて、利用者の状況や対応の共有を行っている。 ・利用者一人ひとりの様子の変化については、フジデータに入力、支援経過にも記録し、職員が共有できる形をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の訪問美容師への理髪依頼や踊り・手品のボランティアの活用を行っている。 ・介護保険外の認知症カフェで、他事業所の利用者同士の交流の実施や、移送サービス活用、地域のボランティアの情報収集等を行っている。 		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の商店や訪問美容師、以前から使用していた、美容院、病院と在宅で生活していた時となるべく変わらない生活を送れるよう支援を行っている。 ・民生委員や自治会長、消防署、地域住民の力を借りて、1年に2回避難訓練を行っている。 		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・実態調査や契約時に、かかりつけ医の確認を行い、継続した受診が行えるように支援を行っている。緊急時には、救急搬送や入院病床へ対応することを伝えている。 	<p>利用者は、入居前のかかりつけ医となっている。かかりつけ医への通院は、家族対応が原則であるが、遠隔地に住んでいる家族の場合などは、無料で職員が付き添い、受診できるように支援している。かかりつけ医とは、書面による情報交換をして連携を図っている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状態が変化した際には、併設の小規模多機能事業所の看護職員に相談を行い、利用者の対応を行っている。 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入院時には、ケアマネジャーが、病棟看護師から利用者の状況確認を行い、家族や職員に報告を行っている。また、家族が病院に面会した際には、その際の利用者の状況を確認している。 ・病院の医療相談員に連絡を行い、退院の調整を行っている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・入院等により、利用者の状態が変わる都度、ご家族と、本人の今後の生活やグループホームでの生活方法について、話し合いの場を持っている。 ・利用開始時点、状態が変わる都度、リビングウィルの同意書を作成している。 ・現在、看取りを実施する予定の利用者はいない。 	事業所として、重度化及び看取りに関する指針を定めている。過去に1名の方の看取り経験がある。小規模多機能事業所に勤務する看護師と連携し、家族の意向を尊重した看取りを実施することを入居時に説明して、了解を得ている。「グループホーム長寿庵ご利用者のリビングウィル(生前意思)確認書」を、利用者及び家族に提出していただき、意向を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署主催の救命講習を職員全員2年に1度は受講している。 	/	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・火災想定避難訓練を年に2回(日中と夜間)地域の方々の協力を得て、行っている。 ・地震マニュアルの読み合わせ。 ・台風の際、管理者が本部や健康福祉の里と常に連絡を取り合っている。 	災害時対応のマニュアルを作成している。年2回、利用者・地域住民の協力を得ながら避難訓練を行っている。今年の台風10号による県内グループホームの被害状況を課題として振り返り、マニュアルの見直しをしているところである。災害用として、水、米、ごはんなどを備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族的な雰囲気大切にしつつも、利用者を人生の先輩として大切に、敬語を主とし声かけを行っている。 また、排泄等の場面においては、羞恥心に配慮し、小声や筆談等コミュニケーション方法に工夫しながら対応を行っている。 	マニュアル管理部会(事業所からも職員が一人参加)において、母体法人で定めるマニュアルを、毎年検討し、見直している。トイレ誘導の声かけ、部屋への入室時のノックなど、プライバシー保護の研修を定期的に行い、プライバシーに配慮した対応をするように努めている。書類は、キャビネットに保管し、仕事の申し送りの際は、利用者の名前ではなく居室番号で行う等の配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・意思表示が難しい利用者であっても、職員本位で介護を行うのではなく、表情に笑顔が見えるか、体調のサインをみながら、支援を行っている ・生活上の支援の際、ご本人に確認や希望を伺いながら、対応を行っている。集団場面で確認が取りにくい際は、居室や入浴場面等1対1の際に希望確認している。 	/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・体操やレクリエーション、行事等の時間はありますが、強制することなく、その都度、一人ひとりの利用者に確認を行いながら生活していただいている。 ・自由に居室で過ごしていただき、静養していただいている。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・馴染みの美容院の利用、身体状況の関係で移動が困難な利用者には、訪問理容師の利用を行い、身だしなみの支援を行っている。 ・衣類の準備も本人に確認や本人自身にお任せして、好きな衣類を着ていただくよう対応している。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者と一緒に郷土料理(ひつつみ等)を調理したり、おやつ作り、野菜や果物の皮むき等を一緒に行っている。 ・下膳作業や米とぎ、食器洗いを職員と協力して行っている。 	<p>食事の献立と料理は、管理栄養士が担当している。味付けは、食べやすいものとなっている。職員と利用者が一緒に食卓を囲み楽しく食事ができる雰囲気づくりを大切にしている。事業所の畑で取れた白菜の漬物をつくる等、利用者の能力に応じた作業をすることで利用者の楽しみや喜びとなっている。炊事の手伝い、新聞の配達、食事の準備、掃除等の生活動作を組み合わせることによる生活リハビリに取り組んでいる。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの嗜好を確認し、代替えの食品を提供している。 ・水分についても、好みに応じ、カルピス、水分補給ゼリー、os1等を提供している。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後実施している。利用者一人ひとりの状態に応じ、うがい、義歯洗浄剤での義歯洗浄、磨き残しの介助等を行っている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用開始時点(退院直後)で、リハビリパンツ使用だった利用者を布の下着に変更できた。反対に、本人の身体状態の悪化により、夜間帯のみオムツ使用になった利用者がある。 排泄は失敗はあるものの、本人の尊厳を大切に布の下着を対応している方もいる。 	<p>夜間は、ポータブルトイレ、オムツ使用の利用者もいるが、日中は、利用者全員がトイレでの排泄をしている。利用者の排便については、記録したチェック表で確認をしている。基本的には、利用者の自己申告によるが、ソワソワしている等の行動観察をして、状態を見て誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、昼食前やおやつ前に体操やレクリエーションを行っている。 ・長寿庵として、管理栄養士を配置しているので、献立も考えられている。 ・水分摂取量も職員間で日々申し送りを行いながら対応している。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴を行うかどうか、時間を変更しながら対応している。一番最初に入浴することに抵抗がある方には、変更して対応している。 ・一対一でお話をしながら、30分程度かけながら、入浴していただいている。 	<p>基本的には、週3回、午前中に入浴していただいているが、職員が一方的に決めず、利用者のその日の希望を聞いて対応している。職員とゆったり会話を楽しみながら入浴していただけるように支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・昼寝や、休みたい時は、自由に休めるよう対応している。 ・夜なかなか休めない時には、テレビをみたり気分転換の時間を設けて対応している。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりの服用する薬の一覧を作成している。 ・服薬チェック表や薬の服用前後のダブルチェックを行っている。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・遠野市内の伝統行事(遠野祭り、入部行列)、グループホーム独自で四季に合わせた行事(春・秋ドライブ、かき氷等)を企画し、実施している。 ・ホーム内での生活も、掃除や炊事、洗濯等ご本人の状態・気持ちに配慮しながら、職員と一緒にやっている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・遠方の家族帰省時の外泊や家族の初盆等、家族と調整を行いながら、自宅で生活を行えるよう支援を行っている。 ・事業所内で、遠方外出の際も、利用者の身体状況、道路状況等を確認しながら、利用者全員で外出できる機会をつくっている。 	散歩がしたい、理美容院へ行きたい、郵便局で年金を受領したい、お墓参りがしたいなどの要望があり、家族の協力を得ながら、利用者の外出の支援をしている。朝の散歩の時は、近辺に出かけている。家族の協力を得て、利用者の自宅にも出かけている。いつも利用者の希望に沿った対応ができるように取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・金銭の自己管理が可能な方には、本人が管理している。小遣い程度で自己管理困難な方には、事業所の金庫で管理している。 ・一緒に買い物に外出した際は、職員が一方的に支払いを行わず、金額を伝え、本人に支払うよう支援を行っている。 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・遠方の家族と電話ができるように取り次いでいる。また、利用者本人が携帯電話を持参して、家族と電話を行えるように配慮を行っている。 ・親族へ手紙を渡す際には、本人の活動の様子を手紙に同封し、対応している。 		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・季節のカレンダーや七夕の短冊等、季節毎の物を置くように対応している。 ・行事に合わせて、思い出の写真を掲示している。 ・季節の花(桜や藤の花等)を飾っている。 	居間兼食堂は、行事の思い出の写真が掲示されている。暖房はオイルヒーターで、過ごしやすい暖かさである。利用者にとって、居心地の良い生活空間となっている。利用者の不安を少なくするため、居室、トイレ、風呂場に、ナースコールを設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・休みたいとき、一人で食事を摂りたい時等、置コーナーを活用して対応を行っている。 ・利用者同士声をかけあって居室で話を行っている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅で生活していた頃に使用していた、椅子や筆筒、時計、家族との思い出の写真等を持参していただき、自宅との環境のギャップをなるべく感じないように対応している。 	居室は、ベッド、オイルヒーター、ポータブルトイレ（必要な方のみ）を備え付けている。タンス、テーブル、イスなど利用者が使い慣れた品々が居室に持ち込まれ、それぞれの利用者の居心地の良さに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの場所、目印を設置してスムーズに移動できるよう対応している。 ・居室の名札プレートの作成を行い、利用者が安心して、お部屋に行けるよう配慮を行っている。 	/	/